

# 思考ツールを用いて視点を明確にして追究し、 仲間に焦点化して説明する力を育てる学習

6年生

明治の国づくりを進めた人々

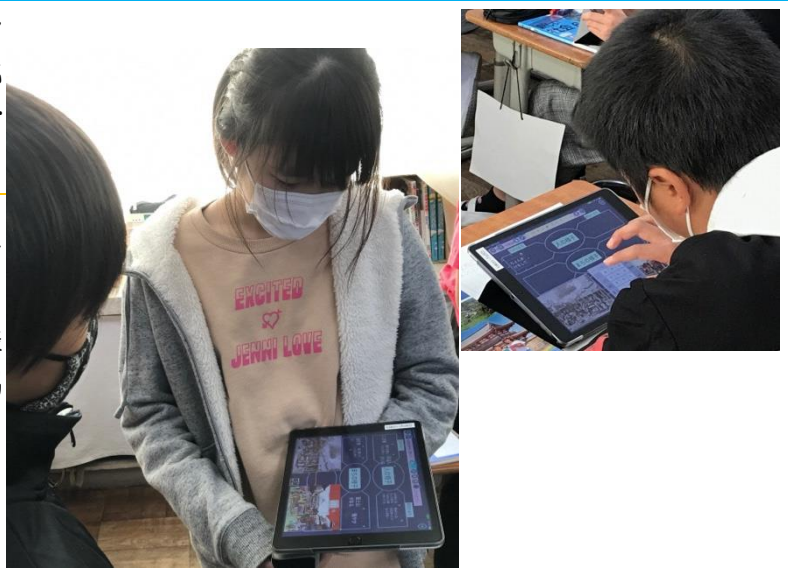
## こんな子どもたちの姿が生まれました！

- 複数の資料を詳細に比較して相違点を見出すことによって、その要因を考察しようと自ら学びを深めることができました。
- 追究して気付いた内容を仲間に分かりやすく伝えるために、伝える方法を自ら選択したり、伝え方を工夫したりすることができました。

## 思考ツールやスライドを用いて資料から読み取ったことを整理し、思考を可視化

協働学習支援ツールを用いて、思考ツール「キャンディチャート」上で社会的事象を比較・関連させたり、スライドで学習課題に対する予想を示したりする。

- ・教師が、江戸時代と明治時代の町の様子に関する資料と思考ツールのシートを生徒用の ICT 端末に送付する。
- ・「キャンディチャート」で人々の様子と町の様子を比較・関連させて、気付いたことを ICT 端末上へ書き込む。
- ・単元を貫く学習課題に対する予想をスライドに書き込み、本単元の学習課題の解決に向けて見通しがもてるようにする。



### 教師の指導のポイント

- 思考ツールを用いる際には、学習のねらいに応じて、児童が比較・関連する視点を自ら考え、課題追究を進めることによって、より社会的事象の見方・考え方を働かせることにつながる。
- スライドを作成する際には、背景の色を視点別に指定したり、端的な言葉で作成してその具体的な内容を説明したりできるように促す。

## 仲間に伝える内容に合わせて ICT 等の伝える手段を選択



資料から読み取った事実を仲間に分かりやすく伝えるために、大型提示装置と掛図を選んで活用する。

- ・仲間に伝えたい内容が確実に伝わるように、教師用の ICT 端末をピンチアウトしたり、掛図を指し示したりしながら説明する。
- ・これまでに学習した資料を自ら選択して、本時の学習で取り上げた社会的事象に関連付けて考える。

### 教師の指導のポイント

- ICT 機器を用いる際も、相手意識をもった説明となるように、他の教科等においても、取り上げる内容に応じて、効果的な内容の示し方を確かめ合い、言語能力の育成を図る。